

修士論文（要旨）
2009年1月

脳卒中患者の主介護者のエゴグラムが介護負担感に及ぼす影響

指導 柴田 博 教授

国際学研究科
老年学専攻
207J6016
森本真知子

目 次

1 . 研究背景	1
2 . 研究目的	1
3 . 研究方法	2
1) 対象	2
2) 調査内容	2
(1) 調査項目	2
(2) 調査に用いた尺度	2
3) 分析方法	4
(1) 対処方略(コーピング)についての分析方法	4
(2) エゴグラムについての分析方法	4
4 . 分析結果	4
1) 対象者の概要	4
(1) 対象の属性	4
2) 介護負担感及びコーピングの状況	5
(1) 要介護者の状況	5
(2) 主介護者の状況	5
3) 本人の年齢、患者の年齢、介護期間、Zarit の介護負担感および コーピング尺度相互の相関	6
4) 主介護者のエゴグラムと介護負担感の関係	6
5) 主介護者のエゴグラムとコーピングの関係	6
5 . 考察	7
6 . まとめ	8

文献
資料

1. 研究背景

脳血管疾患は日本における死因の第3位を占め、後遺症を残すことも多く、患者とその家族に多大な影響を与えている。脳血管疾患のリスクは加齢に伴って増大することから、高齢化の進むわが国では脳血管疾患患者も増加することが予想される。後遺症が残れば、家族介護者の精神的・身体的負担は重いので、介護者の介護負担感を生じる要因を探り、家族の介護負担の軽減を図ることが重要となっている。

2. 研究目的

本研究は、脳卒中患者の主介護者の主観的介護負担感と客観的介護負担感の違いに着目し、主介護者の介護負担感に対処方略（コーピング）や行動パターン（エゴグラム）がどのように関連しているかを明らかにし、在宅介護家族が安定した生活を維持継続することを可能にする要因や支援策を探ることを目的とする。

3. 研究方法

- 1) 調査対象と方法：都内4区の在宅で脳卒中患者を介護する主介護者60名を対象とし、介護関係者等を通してアンケート調査を依頼し、48名の回答を得た。
- 2) 調査項目と尺度：要介護者と主介護者の属性について、介護負担感尺度はZaritの介護負担感尺度日本語版、対処方略尺度は岡林らの対処方略尺度、エゴグラム尺度は新版TEG IIを用い、介護負担感との関連を検討した。

4. 分析結果

1) 介護負担感及びコーピングの状況

(1) 要介護者の状況：患者の性別にみたコーピングの尺度では、患者が女性の方が有意に気分転換ができていた。要介護度とZaritの介護負担感尺度では、要介護度4が有意に介護負担感が高く、要介護度とコーピングの介護役割の積極受容の尺度では、要介護認定無しが、介護役割の積極受容が有意に受容されていた。高次脳機能障害の有無とコーピングの気分転換尺度では、高次脳機能障害無しが有意に気分転換ができていた。認知症の有無にみたZarit介護負担感尺度では、有りが有意に介護負担感が大きかった。排泄介助の有無にみたZaritの介護負担感尺度では、有りが有意に介護負担感が大きかった。排泄介助の有無にみたコーピングの介護におけるペース配分尺度と気分転換尺度では、両方とも無しが有意にできていた。

(2) 主介護者の状況：本人の性別にみたZaritの介護負担感合計点尺度では、女性が有意に介護負担感が大きく、コーピングの介護のペース配分尺度では、男性が有意に介護のペース配分ができていた。本人の職業別にみたコーピングの合計点尺度、コーピングのペース配分尺度と気分転換尺度では、どちらとも自営業が有意にできている状況だった。

(3) 相関：本人の年齢、患者の年齢、介護期間、Zaritの介護負担感及びコーピング尺度相互の相関係数をみると、Zaritの介護負担感に対して、コーピングの合計点、介護におけるペース配分、介護役割の積極受容、気分転換とはそれぞれ負の相関が認められた。私的支援追求に対して、コーピングの合計点、介護におけるペース配分、気分転換、公的支援追求とはそれぞれ正の相関が認められた。公的支援追求に対して、コーピングの合計点、私的支援追求とはそれぞれ正の相関が認められた。

2) 主介護者のエゴグラムと介護負担感の関係

主介護者のエゴグラム4分類と Zarit の介護負担感の合計点では、有意差はみられなかった。

3) 主介護者のエゴグラムとコーピングの関係

主介護者のエゴグラム4分類とコーピングの介護役割の積極的受容尺度では、エゴグラムパターンN型タイプが有意に低く、コーピングの私的支援追求尺度では、エゴグラムパターン逆N型タイプが有意に高く、コーピングの公的支援追求尺度では、エゴグラムパターンN型タイプとM型タイプで有意に低かった。

5. 考察

主介護者のエゴグラムが介護負担感に関連するという結果は得られなかった。しかし、介護負担感と主介護者、要介護者の属性、コーピングと介護負担感、コーピングとエゴグラムなどには関連するという結果がみられた。

エゴグラムパターンN型タイプは、介護役割の積極受容をしていないことがわかった。人に優しく「No」と言えずに滅私奉公し我慢するN型タイプにありがちで、客観的介護負担感よりも主観的介護負担感が大きいと感じる事例に当てはまると考える。公的支援追求も低いことから、抱え込んで燃え尽きになる危険性があるタイプと考える。

エゴグラムパターン逆N型タイプでは、私的支援追求が高かった。このタイプは統計的には有意差はなかったが、公的支援追求も高く、介護負担感の低い方であったことから、主観的介護負担感が客観的介護負担感よりも低いという事例に当てはまると考える。このタイプは責任感が強く、有能であり、一方自他共に厳しく、人への思いやりに欠けるタイプであるので、私的支援追求のコーピングが高いことが悪い面に出ると、家族などが振り回されてしまうことが懸念される。

6. まとめ

主介護者のエゴグラムが、直接、介護負担感に関連していなかったが、客観的介護負担感と主観的介護負担感のずれを生ずる一要因として介護者の行動・交流パターンの違いが関連することが推察できた。従って、エゴグラムを見ることで、行動・交流パターンを知り、そのタイプに現れたコーピング状況にそって的確な手段的・情緒的サポートを行うことは、より効果的な介護負担感の軽減につながると考える。

文献

- 1) 武政誠一, 出川瑞枝, 杉元雅晴, 嶋田智明. 在宅高齢脳卒中片麻痺者の家族介護者のQOLに影響を及ぼす要因について. 神大保健紀要 2005 ; 21 : 23 - 30
- 2) 安田 肇, 近藤和泉, 佐藤能啓. わが国における高齢障害者を介護する家族の介護負担に関する研究—介護者の介護負担感、主観的幸福観とコーピングの関連を中心に—. リハビリテーション医学 2001 ; 38 : 481 - 489
- 3) 和気純子, 矢富直美, 中谷陽明ほか. 在宅障害老人の家族介護者の対処 (コーピング) に関する研究 (2) —規定要因と効果モデルの検討: 社会福祉援助の示唆と課題—. 社会老年学 1994 ; 39 : 23 - 33
- 4) 荒井由美子. Zarit 介護負担感スケール日本語版の応用. 医学のあゆみ 1998;186:930-931
- 5) 岡林秀樹, 杉澤秀博, 高梨薫ほか. 在宅障害高齢者の主介護者における対処方略の構造と燃えつきへの効果. 心理学研究 1999 ; 69(6) : 486 - 493
- 6) R. S. ラザルス (講演). ストレスとコーピング. (林峻一郎編・訳). 星和書店, 東京 (1990)
- 7) 東京大学医学部心療内科TEG研究会編. 新版TEGⅡ 検査用紙. 金子書房, 東京 (2006)
- 8) 翠川純子. 在宅障害老人の家族介護者の対処 (コーピング) に関する研究. 社会老年学 1994 ; 39 : 16 - 19
- 9) 守本とも子, 柳井勉. 在宅重度重複障害者の介護者における主観的健康観・生活満足度に関連する介護負担要因の分析. 日健教誌 2000 ; 7 (1 - 2) : 3 - 10
- 10) 東京大学医学部心療内科TEG研究会編. 新版TEG活用事例集. 初版, 金子書房, 東京 (2002)
- 11) 東京大学医学部心療内科TEG研究会編. 新版TEGⅡ解説とエゴグラム・パターン. 初版, 金子書房, 東京 (2006)
- 12) 石川利江. 在宅介護家族のストレスとソーシャルサポートに関する健康心理学研究. 初版, 風間書房, 東京 (2007)
- 13) 平松誠. 近藤克則, 梅原健一ほか. 家族介護者の介護負担感と関連する因子の研究 (第2報) —マッチドペア法による介入可能な因子の探索— 厚生 の 指 標 2006 ; 53 (13) : 8-13